

^{123}I -Iomazenil brain SPECT の定量測定

モヤモヤ病患者を対象に

金田 朋洋* 山崎 哲郎* 丸岡 伸** 阿部 養悦***
高橋 昭喜* 山田 章吾*

* 東北大学医学部附属病院放射線科
** 同 医療技術短期大学部
*** 同 医学部附属病院放射線部

要旨 1995年2月から3月にかけて当院で施行した ^{123}I -Iomazenilの第3相臨床試験時において、モヤモヤ病患者11例(男性4例,女性7例)を対象とし、その脳内動態を3コンパートメント2パラメータモデルにて解析して定量測定を行った。各部位(小脳,前頭葉,頭頂葉,側頭葉,後頭葉)別にROIを取りK1とBPについて検討した。両者間には弱い相関関係($r = 0.639$ ($p < 0.0001$))が見られた。K1を脳血流の指標として平均値で二群に分けた時、それぞれの群のBP値には有意差が見られた($p < 0.001$)。しかしK1が平均値 \pm S.D.の範囲内に限って同様の検討を行ったところ $p = 0.537$ で有意差は見られなかった。提示した症例のようにIMPとIMZ SPECT像の所見が乖離する例もあり、モヤモヤ病において脳血流低下が神経細胞に及ぼす影響は様々であることが示唆された。 ^{123}I -IMZにより提供される神経細胞のviabilityの情報は、モヤモヤ病患者の血流低下域の評価に有用と思われた。

(核医学 36: 1007-1012, 1999)